

11. 園田学園女子大学

寺嶋 浩介・三輪 勉・田口 真奈

訪問日時 2001年12月4日（火） 14：30～18：30

訪問先 園田学園女子大学

訪問先の調査協力者

山本 恒：国際文化学部言語コミュニケーション学科教授
（兼）情報教育センター所長

五島 邦治：国際文化学部文化学科 助教授

堀田 博史：国際文化学部言語コミュニケーション学科 講師
（兼）情報教育センター主幹

訪問者

田口 真奈：メディア教育開発センター助手

寺嶋 浩介：関西大学大学院 総合情報学研究科 大学院生

三輪 勉：関西大学大学院 総合情報学研究科 大学院生

1. 大学全体の概要

同大学は1966年に文学部として開学した女子大学である。その3年前には短期大学を開学（現在は園田学園女子大学短期大学部）しており、両者は現在も同じ場所にある。付属・併設学校としては園田学園幼稚園、付属学が丘幼稚園、中学校、高等学校がある。

大学には国際文化学部があり、文化学科（3専攻：日本の文学と芸能、日本の歴史と民俗、比較生活文化）と言語コミュニケーション学科（3専攻：英語、日本語、情報コミュニケーション）からなる。2002年度からはそのうち情報コミュニケーション専攻が学科となり、新たに人間健康学部（3学科：総合健康、食物栄養、幼児教育）が設置される予定である（現在認可申請中）。

同大学の特徴的な点は、学科として立ち上げようとしている情報に関する教育とそれを取り巻く環境（後に説明）、そのだクライストチャーチキャンパス（ニュージーランドの姉妹校、クライストチャーチ教育大学にある研修宿泊施設）を持ち交流を進めたり、留学制度を充実させたりするなど、国際的な視野も幅広くもっていることである。またソフトボール、テニスなどが全国レベルで高い実績を残しており、スポーツにも力を入れている。

〈情報環境と情報教育カリキュラム〉

同大学の特徴点のひとつとして、先に情報教育に関する実践をあげたが、これが現在のオンライン教育における礎を築いていると思われるので、まず紹介したい。

(1) 情報環境

同大学の情報環境はそのほとんど全てが情報教育センターの中に集約されているといっ
てよい。1つのフロアにパソコンを設置する教室が6つあり、教室によって様々な用途で
活用されている。

- ・大学、短期大学部（社会人等の聴講生を含む）の基礎的情報教育の場として
- ・マルチメディア等の利用を想定した部屋
- ・情報コミュニケーション専攻生が優先的に利用できる部屋（ゼミ、卒業研究等）

空いている教室などはいつでも自由に使うことができる。また夜18時以降などはIT技能講習の会場としても利用されることが多い。機器の構成としてはデスクトップのパソコンを利用する部屋が5つ（台数は教室によっても違ってくるが、多くの学生が利用する部屋は大体50台程度）、ノートパソコンを利用する部屋が1つ（100台程度）ある。2001年度夏から秋に新しいパソコンが導入された（OSはWIN2000を使用）。

特徴的なのは学生にとっての利用が容易であるように、情報環境が整えられているということである。学生はひとりずつIDとパスワードを所持するが、どの教室のパソコンからでもログインをすると今までと同じ情報環境が整えられている。例えば、デスクトップの背景を変えたとなると、次はどこからログインしても同じように変わっているということである。またサーバ上に自分自身のための保存領域が準備されているので、そこにファイルの保存をしていけばよいようになっている。当然、これについてもどこからでもアクセスをすることができるので、FDに保存して常に持ち歩く、という必要性はない。

ハードウェアのサポートだけではなくて、人的なサポートも整っており、TA（Teaching Assistant）4名がスタッフルームに在室し、学生からの時間外の質問に受け答えしたり、分担して情報教育の実習講義の指導補助にあたったりする。あとは時間に応じてSA（Student Assistant）がスタッフルームや授業に入る（主として情報コミュニケーション専攻の3年次）。

(2) 基礎的情報教育とユニット制による情報教育

学部・学科に関わらず、同大学では「基礎的情報教育」として次の8つの目標を位置づけているという。

- (1) 自ら学ぶ学習の方法を修得する
- (2) コンピュータの基本的な操作方法を修得する
- (3) ソフトウェアの基本操作・特徴・限界を理解する
- (4) 情報社会の特質、情報倫理、健康管理などについて理解する
- (5) コンピュータの仕組みを知る
- (6) アルゴリズムやオブジェクト思考などについて理解する
- (7) 情報関連機器を問理解決の道具として利活用する
- (8) 高度情報化社会への興味・関心を持つ

またこの目標を達成するために、大学・短大では基礎情報処理教育が(1)(2)と半期ずつ、1年にわたって行われることになっている。ここでは学習すべき教材内容がユニット化されており、学習者が自分自身で選択し、個別学習を行うことで学習を進めていく。ひとつのユニットに合格することによって、得点が与えられ、総合得点によって成績が決定される。これらの教材は次に説明するように、学内のイントラネット上にあげられており、好きなときに自分の進度に合わせて学習を進めていく。事実上の「オンライン教育」となっ

ているが、授業については週に1回設定されており、そのときに教員と学生が対面する時間が設けられている。このときに必修の共通して取り組む部分のポイントの講義や注意点などが述べられることになる。

表1：基礎情報処理教育のユニット

ユニット名	種別	得点
1. オリエンテーション	(1)で必修	2
2. コンピュータの基本操作	(1)で必修	2
3. 電子掲示板でコミュニケーション	選択	4
4. 図形や文書の複写と貼り付け	(1)で必修	4
5. プレゼンテーション(1)	(1)で必修	4
6. 文書の編集とレイアウト	(1)で必修	4
7. 情報検索の基礎	選択	4
8. マルチメディア作成技法	選択	4
9. 自分のディスクを整理しよう	選択	4
10. 情報社会の仕組み	(1)で必修	2
11. 情報倫理・コンピュータと健康	(1)で必修	2
12. コンピュータネットワーク	(2)で必修	2
13. 電子メール入門	(1)で必修	4
14. プレゼンテーション(2)	(2)で必修	6
15. 教育用言語Logoの世界	(2)で選択必修	8
16. クイズを作ろう(Visual Basic)	(最低ひとつ	8
17. データベースの基礎	は選択。複数 も可。) 選択	8
18. 表計算の基礎		8
19. 自分の環境を創ろう		4
20. 日本語入力の達人になろう		6
21. ペインティングデザインに挑戦	選択	6
22. レポートの作成方法	選択	6
23. コンピュータミュージックの基礎	選択	4
24. あなたも作曲家	選択	8
25. マニュアルを作ってみよう	選択	8
26. Logo言語によるリスト処理	選択	8
27. コンピュータ制御 (レゴ)	選択	8
29. 電子紙芝居を作ろう	選択	15
30. ホームページの作成	選択	15
31. 取材とミニ新聞の作成	選択	15

32. ビジュアルデータベース	選択	30
33. データ分析入門	選択	15
34. システム思考入門	選択	4
35. 基礎的情報教育に関する調査	選択	10
36. プレゼンテーション(3)	選択	6
37. コンピュータの購入方法	選択	4
38. Prologによる記号処理入門	選択	10
39. 表計算の活用	選択	8
40. 3Dグラフィックスの世界	選択	10
41. 動くおもちゃを作ろう	選択	15
42. シム・カンパニー(1)	選択	15
43. ソフトウェア開発	選択	30
44. ホームページで情報発信	選択	30
45. マルチメディアプレゼンテーション	選択	30
46. ホームページデザイン	選択	10
47. 電子メール活用	選択	4
48. 表計算のマクロ	選択	15
49. Visual Basic (2)	選択	15
50. シム・カンパニー (2)	選択	30
51. インターネット探検	選択	4

※合格点は(1)が優 (40点以上) 良 (35点以上) 可 (30点以上)

※(2)はその倍の点数が合格点。ただし、(1)で取った点数と合格ユニットについては継続される

(3) 自己学習支援システム

以上の理念を踏まえて、Web上に構築された教材が「自己学習支援システム」と呼ばれている。もともとその教材はCAIの考え方を反映したもので、ひとりひとりに進度の時間差はあっても、時間をかければ必ず目標を達成できるという考え方をもとに成り立っている。8年前から開始されたというが、当然のことながらその当時はWebの技術が確立しておらず、Visual Basic の取り組みであったという。ここ5年ほどがWeb上の展開となっている。先の表1のユニットが教材となっており、ひとつのユニットを終了すれば次のユニットを選択するという形で学習が進み、最終的に締め切り時期までに獲得している得点で成績が決められる。

ひとつのユニットについて、開始から合格まで、次のようなプロセスを各個人でふむ。

ユニット概要を知る→ユニットを選択→Web教材を読む→課題を解決する→提出物を提出する→ミニ課題を解決する→自己点検をする→評価依頼をする→評価の結果が返ってくる

最終的に結果が「合格」であれば、次のユニットを選択し、「不合格」であれば、また教材に戻って課題のやり直しとなる。

その全ては紹介しきれないが、システムについての概要を紹介しておく。まず学生がシステムにログインすると見ることができるのは図1の画面である。左のフレームを見てみると、自分が履修している情報系の科目、教員からの連絡一覧（右フレームの「お知らせ」の過去ログ）、電子会議室（クラスごとの掲示板）、お友達（現在同時にログインしているメンバー）、自分の印刷・ログオンに関する記録を見ることができる。右のフレームでは教員からの諸連絡（クラスに出す場合と、個人に出す場合がある）、自分の学習の状態（現在の得点と合否）、それぞれのユニットの状況（属性、満点、クラス内の合格者、自分自身の状況（選択状態かすでに合格しているかなど）、合格していれば得点）が示される。

図2は実際の教材画面の導入である。内容（そのユニットの概要と、教材へのリンク）、状況（この画面で選択、評価依頼とその結果を見ることができる）、学習のプロセスで紹介したミニ課題と自己点検の画面へのリンク、ファイル提出のあるユニットであればWeb上から教材が提出できるような仕組みになっている。

お知らせ

よいお年を。

年明け50点(必修全てをきむ)、取れそうですか？
私は今年もう来ません。
となると、評価と印刷物が問題になります。
評価は遅くとも12月に行います。
印刷物の回収ですが、12月9日と27日に行います。
提出物のあるユニットに関しては評価が多くなりますので、
協力をお願いします。

URL: 31.0.44006より 2001/12/12 12:26:11
(得意 活弁)

あなたの状態: 必修が終わっていません(得点:0)

ユニット				状態	
番号	タイトル	属性	満点	合格	得点
1	オリエンテーション	必修	2	44	選択
2	コンピュータの基本操作	必修	2	43	選択
4	図形や文書の複製と貼り付け	必修	4	43	選択
5	プレゼンテーション(1)	必修	4	43	選択
6	文書の複製とレイアウト	必修	4	43	選択

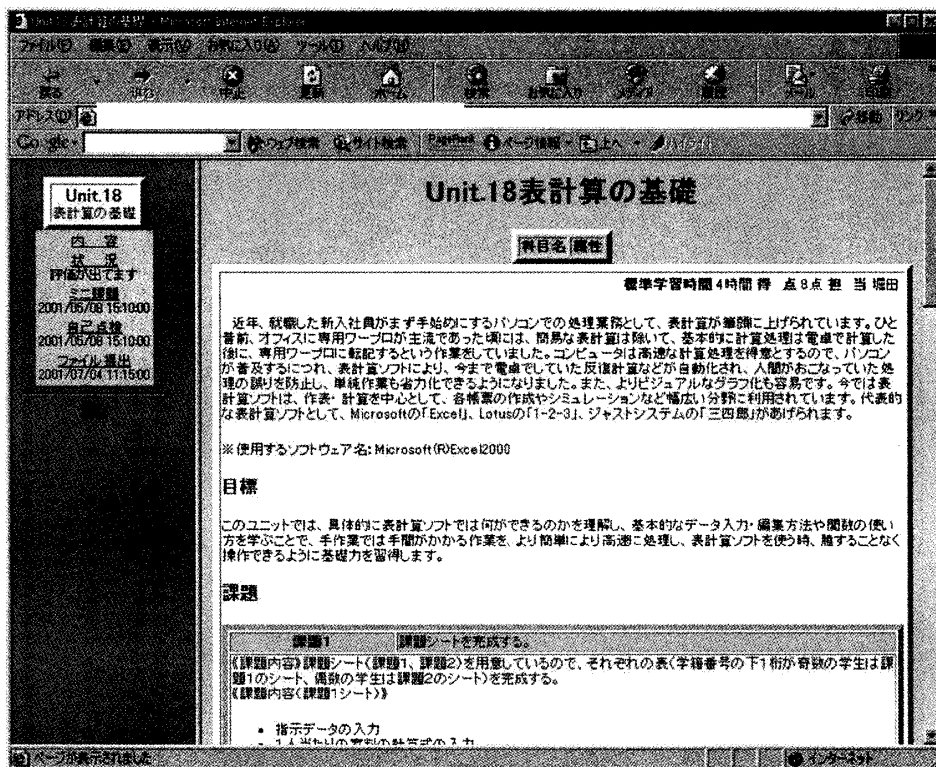


図2 教材画面（図は内容画面）

評価依頼が学生からあれば、その学生を担当する教員が可否の結果を返すことになる。教員用の画面を紹介する（図3と図4）。これはひとりの教員の評価用画面であるが、「各ユニットの評価依頼」のところをみると、現在どのユニットに何件の評価依頼がきているのかを見ることができる。「全件」というのは学内全体においてどの程度評価依頼がきている数、そしてそのうち自分が担当する学生からきている評価依頼が「担当分」のところに出てくる。評価依頼のきているユニットは色が変わって示されるのである。なお、この画面から評価をする画面に行くことができるが、本報告ではその図は割愛したい。簡単にいうと、今までのミニ課題や自己点検の結果と（ファイル提出があれば）そのファイルへのリンクが用意されていて、合格か不合格を決定できるようになっている。また学生へのコメントを書くが、これについてはある程度のテンプレートを登録できるシステムになっており、合格時のコメントや学生の誤答類型を推測し、対応することもできる。

自己学習支援システム評価 - Microsoft Internet Explorer

現在の依頼状況(寺島 浩介)

→ 学生のホームページ

学生の検索 電子会議室検索 学内HP検索 学生HP作成 メッセージ編集 印刷管理 印刷記録集計

担当しているクラス 各ユニットの評価依頼

番号	クラス(学年)	人数
01204	火曜1限:情報処理②	43名
01206	火曜2限:基礎情報処理②	24名
01207	水曜1限:情報処理②	43名
01209	水曜2限:情報処理②	26名

その他のクラス

番号	クラス(学年)	人数
k00000	木曜6限:情報処理②	21名
k12046	日曜1限:情報処理①	6名
k12046	日曜1限:基礎情報処理①(16歳年)	11名
k12046	月曜2限:情報処理②	43名
k12046	月曜3限:情報科学授業	46名
k12046	月曜5限:情報処理②	16名

No.	ID	題名	全合格者	全修	満当分
1	0001	オリエンテーション	6267名	5件	0件
2	0002	コンピュータの基本操作	6069名	2件	0件
3	0003	電子掲示板でコミュニケーション	3905名	2件	0件
4	0004	図形や文書の描画と貼り付け	5251名	2件	0件
5	0005	プレゼンテーション(1)	5667名	2件	0件
6	0006	文書の編集とレイアウト	5694名	2件	0件
7	0007	情報授業の基礎	1452名	2件	0件
8	0008	マルチメディア作成技法	735名	6件	0件
9	0009	自分のディスクを整理しよう	2503名	7件	0件
10	0010	情報社会のしくみ	5451名	21件	0件
11	0011	情報倫理・コンピュータと健康	5354名	20件	0件
12	0012	コンピュータネットワーク	4259名	7件	0件
13	0013	電子メール入門	5677名	1件	0件
14	0014	プレゼンテーション(2)	3095名	15件	0件
15	0015	教育用書籍Logoの世界	1540名	11件	0件
16	0016	クイズを作ろう(Visual Basic)	632名	0件	0件
17	0017	データベースの基礎	1897名	10件	0件
18	0018	素計算の基礎	3331名	13件	0件
19	0019	自分の環境を作ろう	4422名	15件	0件
20	0020	日本語入力の達人になろう	257名	0件	0件

インターネット

図3 評価画面のトップページ

また本画面を通して、各クラスの成績管理も行うことができる。左上に示されているクラスがその教員の管理するページであるが、これをクリックすると各個人の得点と合否の状況、またここには示されていないが各個人の得点分布状況などを一目に把握することができる。「その他のクラス」のところから他の教員の成績状況のページも確認できるので、他のクラスの進捗等も把握することができる。

以上、同大学での「自己学習支援システム」について紹介をした。現在のブームに先立つこと数年前からこのようなシステムを構築し、実践を進めている。本実践の報告から全体、学生個人、教員にどのような情報が確認できるように用意されているか、インターフェースはどのようなものかなどについて確認できたはずである。ただし一番重要なのはその理念であり、それを反映させるためのシステムであったことをもう一度記しておきたい。山本教授は「教材ひとつひとつの細かい点ではまだ行き届いていないが、全体としてのシステムをどのように作り上げていくか腐心してきた」とインタビューでは発言された。

情報処理(2)

担当: 合格得点:60 →2クラス目

ID	名前	最終ログイン	得点	状態	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
2001/12/11 9:23:35	54	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/14 14:01:44	58	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/11/07 12:14:37	42	[XOO]不(4)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/04 13:12:34	52	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 9:02:12	56	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/11/07 12:14:03	40	[XOO]不(4)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 15:09:06	60	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/13 16:03:54	52	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/10 15:38:20	60	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/08 15:58:22	37	[XOO]不(3)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 13:01:42	64	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 13:58:06	66	[XOO]不(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 9:52:04	64	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/13 16:44:31	60	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 9:14:40	64	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/14 13:38:53	62	[XOO]合(6)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/11 19:17:11	52	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/05 12:50:28	46	[XOO]不(4)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/07 12:35:11	56	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/07 11:17:43	36	[XOO]不(3)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2001/12/04 12:12:56	56	[XOO]不(5)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

図4 ひとつのクラスの成績管理画面

2. そのだインターネット大学

(1) 概要

学内における基礎情報教育の取り組みとは別に、完全な遠隔学習の方式で進める「そのだインターネット大学」の取り組みを2000年1～3月から実験的に実施して、同4月に本格稼働させている。この取り組みは学内の学生を対象としているのではなくて、むしろ生涯学習の取り組みを意識している。立ち上げるにあたっての発想として「今までの通信教育のようなものをインターネット上に置き換えるのではなくて、教員と学習者という1対1の発想から、教員がきっかけとなってともに学びあうという形を作りたいかった。」と山本教授は説明されている。

では以上のような理念を反映させるために、どのような取り組みがなされているのだろうか。まず、当然のことながら学生は履修したい講座を選ぶ（複数の選択は可能）。講座は10コースほどあり、時に不開講となるものもあるが、代表的なものを上げると以下のものがあり、内容としては2単位程度の内容を意識して作っているという。

- ・江戸時代の村と侍ー京都近郊の村のすがたを探るー
- ・「複雑系の科学」入門ーカオスを中心にー
- ・表計算の資格取得！ービジネスコンピューティング3級合格講座ー
- ・先生のための情報リテラシー講座ータートルと遊ぶ (Logo)ー

実際の学習の展開は基礎情報教育と同じように「ユニット制」をとる。しかしながらこちらのほうで特徴的なのは、学習者の志向にあわせた選択というよりも、あらかじめ用意

されたユニットを順番に直線的に履修していくというシステムを取っている。例えば、10のユニットが用意されていれば、1つ目のユニットは1週間後までにみんな終わらせること、そしてその時期が来ると2つ目のユニット教材の閲覧が可能になるのでそれもまた1週間の範囲内で学習していくというように進めていく。1つの講座の期間は教員に任されている部分もあるが、基本的には3ヶ月ほどを単位としている（ユニット換算では10から12）。学習にあたっては1つのユニットで「教材で学習」→「課題への取り組み」→「教員への評価の依頼」→「合格」というプロセスを踏むが、別に掲示板やチャットが用意されていて、学習者間での交流が行われる。この交流の機能についてはそれぞれの講座に委ねられることになっているが、例えばインタビューに応じていただいた堀田講師担当の表計算の講座では、定期的に週1回時間を決めて、ご自身も一緒にチャットに取り組まれているという。

学習を支えるためのシステムとしては、基本的には基礎情報教育のものを踏襲しているが、先のように掲示板、BBSを重んじているという点（教員が自由に開設可能）と、それぞれの学習者の学習進度（評価、進捗状況）や課題を見ることができる点が異なっているが、これは「ともに学ぶ」という発想のあらわれであろう。このようにすることで、多少先に進む学習者が遅れがちな受講生に対して補助的な役割を果たす部分も実際に出てくるようである。その他、自分がアクセスすると、同時にアクセスしている人には印がついてわかるようにもなっており（座席表のようなもの）、細かな配慮もなされている。なお教員—学生間の個人的なメールについては、始まったときにはシステムの面で多くあると聞いたが、そのうちに交流部分のシステムになれてくると、その量は減ってくるという。教員側はメールを「家庭訪問」のようなものだととらえている。

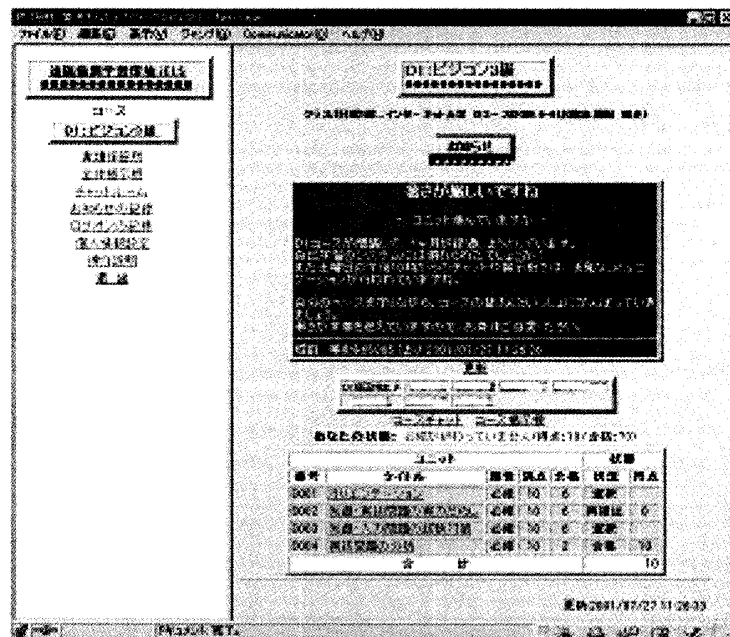


図5 そのだインターネット大学・個人のトップページ

(教員からのメッセージの下にいわゆる「座席表」がある。講座メンバーの全員の名前が記されており、現在ログインしている人には「♪」がついている。)

(2) 人数・システムとコスト等の関連

募集人員はひとつの講座について20名から40名を対象としていて、受講料は7000円でプラス事務手続き料金の1000円である。40名の受講生でぎりぎりまかなわれる額で運用しているという。ただし一方で、人数について教員側は「面倒がみきれるのは大体20名程度」だと考えているようである。システムの開発・運用に関しては学内でまかなっており、内容面、セキュリティ面など一切を自前で行っている。外注はいっさいない。ただし、ハードウェアのサポートはリース業者によって行われるとのことで、この限りではない。教材については教員の手によって作ることになっている。基本的にはひとつの講座はひとりの教員で進めていくということになっている。

(3) 現在の課題

「そのだインターネット大学」は非常に興味深い取り組みであるが、まだいろいろと試行錯誤の段階にあるようである。それだけに今後の発展性も望まれるが、インタビューによると現在は例えば次のような課題を残しているという。

① 評価について

それぞれのユニットごとの評価方法に悩んでいるようである。例えば五島助教授は歴史的な分野の講座を担当しているが、用意している課題がレポートのようなものが多いことに悩んでいるという。ただし、これについては対面での講義でも出てくる問題でもある。この他に理解度テストのようなものもあるが、これはそれぞれの講義の内容で検討されうるべき事項であろう。

② 学生の進捗について

ユニットをある程度直線的なものにして期間を設けて、次のユニットにという体制をとっているが、現実問題として進捗にやはり開きが出てくるといふ。そうなってくると「ともに学ぶ」という目標も崩れがちになってくる。ちなみに受講している学生は社会人がほとんどであるから、なかなか時間を見つけて取り組むのは難しく、ドロップアウトも多いという。このような開きを克服するために一部「選択」のユニットを用意しているとのことであるが、このユニットでのドロップアウトが多いとのことであった。進捗を踏まえた講義のコース設計をどのようにするかという点にも実は課題を残している。

③ 人的なサポート

現在のところこの講座に取り組む教員はある程度コンピュータのスキルに長けた教員が多く、今後さらにバリエーションの富んだ講義を開講するにあたってはその他の教員にとってどれだけ敷居の低いものにできるかがひとつの課題となってくる。インタビューに応じてくださった中では、五島助教授は「それほどスキルに長けたわけではない」ということで、大きい部分は自分で作成するが、細かな部分は学生をアルバイトとして

雇ってコンテンツを作成させる場合もあるという。こうしたところがもっと一般化しないと、普及には至らないのかもしれない。また「インターネット上の大学」を意識して事務局も仮想的なものをおいたが、これについても大学としての意識を明確化するために、実質的なものをおいたほうが良いのではないかということであった。

④ 教材の利用について

現在はテキスト教材が中心になっているので、動画などの有効活用も考えておられる。これについては動画用のサーバを設置して、将来的には実践が進められる予定である。なお学内への教材の二次利用については、そのまま利用して実践している教員もいるが、ある程度作り変えて授業にもっていかないといけないと考えている教員もあり、このあたりは意見が分かれているところである。この教材の一部については高等学校での授業にも輸出される方向にあるという。

(4) 実践を通してわかってきたこと、今後の方向性

このような目標をもとに学ぶ学習においてはコンテンツとして、文系的な講義のほうに適しているのではないかということであった。つまり、文系的な講義のほうが多様な答えが想定されるために学習者同士の交流が生まれやすいという。また、これはインターネットの魅力にもつながるのであろうが、マイナーな科目であってもマーケットを日本全国に広げることによって成り立つ可能性が生まれてくるという方向性を持っている。例えば、わが国でその分野にほとんど専門家がない場合の講義や、障害者向けの講座にも非常にニーズがあるといえよう。今後はクラブ等のようなものもネット上で展開させるなどいろいろと考えておられるようである。

3. おわりに

本報告では園田学園女子大学での「オンライン教育」への取り組みの一環として「自己学習支援システム」と「そのだインターネット大学」について紹介した（前者は対面も含むが）。システムの構築だけではなくて、実践を長く進めてきて成果を出しているのが何よりの特徴であろう。実はシステムとしては抜本的な違いはほとんどないが、両者はその理念が違うことを再度確認しておきたい。

「自己学習支援システム」はスキル習得のための個別学習。時間のかけ方はある程度自由。「そのだインターネット大学」は「ともに学ぶ」ことを目指した学習。ある程度の時間のかけ方も決められている。

この二つの概念というのは何も現在出てきたものではなくて、教育において長い間議論されてきたところが「オンライン」という形で表出していると考えられる。今後この方向性をどのように形にしていけるのかを実践・評価し、議論していくことこそが重要であろう。

参考

園田学園女子大学情報教育センター（基礎情報教育についての概要が記載されている）

http://www.sonoda-u.ac.jp/jouhou/J00_ss.htm

伊藤剛和・宇治典貞・小田桐良一・原克彦・堀田博史・山本恒（2001）「自己学習のための情報処理ガイドブック」六甲出版：神戸（学生が利用。年度ごとに更新）

そのだインターネット大学（本ページより、概要と開講講座が確認できる）

<http://www.sonoda-u.ac.jp/iu/ius2/index.html>